

「半農半芸」試み始動

新生「取手アートプロジェクト」

取手市在住作家の活動支援と、市民の芸術体験の機会提供を目的とした現代美術プロジェクト「取手アートプロジェクト(TAP)」が、昨年11月に実施本部をNPO法人化した。今年度から新たな運営基盤でスタートした。中核プログラムの一つ「半農半芸」も16日に本格始動。同プロジェクトは「取手だからこぞできるアートプロジェクトを、今後は複数年かけじっくり育成したい」としている。

同団体は1999年、年度から10年計画の「半」付け合わせ、作家の自活の取手市と市民、東京空大 農半芸(半)や、生活の中に道と新しい芸術の在り方が共同で取り組む現代美術プロジェクトを紡ぐ「アートの」を構築する。美術プロジェクトとして始まる「現地」プロジェクト。16日は、現地下見と参った。現在、若手作家を中核に、長期活動の充加者約30人の顔合わせをの発表や、作家と市民の「実を語りたい」考えた。兼ねたピクニック、研究会交流の場として定着してこのうち、現代美術家会が行われた。

「これまで一時的なレクチャーに、市内500坪となる農地を放射能測定イベント形式の内容が多坪の農地で始まったのが器で測定したり、周囲の環境などをチェック。研究会は「今こそ半農半に關することが難しくかつと研究会の2本立てで活(半)を問う」と題し、現た」と同プロジェクトの動する。創造が共通 代美術家の橋本さん、N奥村圭二郎理事(29)。今 点という農業、芸術を掛 PO法人アートネットフ



ピクニックでは、500坪の農地と周辺を散策した取手市内

「半農半芸」ディレクター 岩間賢さんに聞く



半農半芸プロジェクトディレクターに就任した岩間賢さん「写真」は新編で「棚田再生など、持続可能なランドアートを展開している。意気込みを聞いた。

「どんなプロジェクトに東日本大震災で農業の在り方が覆った。有機農法などいところまで行っていたが、壊滅状態の農家も多い。このプ

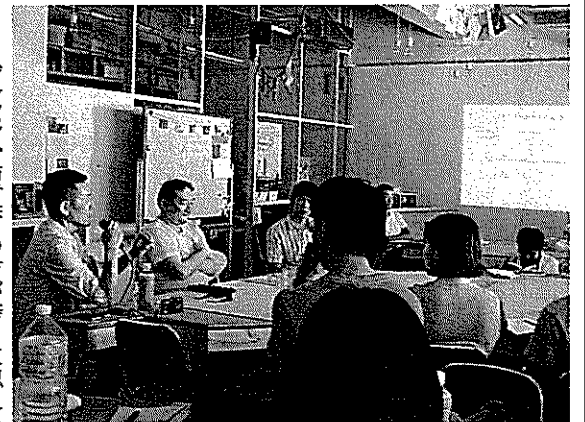
新しいムーブメントを

プロジェクトで農を再考し、新しいムーブメントになれば。

「岩間さんの役割は、つむぐ、つなぐ」のが役割。ただ野菜を作って食べるのではなく、農や芸術を通してみんなで生き方を考えられれば、自分はこれまでの経験を生かし、それを支える立場でいたい。

「プロジェクトの可能性と今後は参加者が思い思いのテーマで活動し、500坪の土地に家や遊び場、畑にお社など、小さな村のような循環型の何かが、自然発生的に出ることを望む。そのモデルが今後、震災で被災した地域力になるし、作家への刺激になると信じ

500坪の農地で下見会



研究会の様子＝取手市井野団地のTappino

ーク・ジャパン、市村作の方が誇りに思えるよ知雄会長をゲストに半農う、頑張っています」半芸と芸術の未来について話した。

「非電化の家」「肥だ 取手アートプロジェクト「土中ホテル」などトでは引き続き「半農半思い思いのテーマで、体芸」「アートのある団と頭を動かしながら活動地」などの参加者を募集している。問い合わせは奥村さんは「TAPが実施本部0297(7)ある町、取手として市民 0177。(末武葵子)

自然写す「二つの目」

水戸で鳥さん・萩谷さん写真展

「銀塩」で深みある世界

水戸市見川町のギヤラは「銀塩写真」から取っ、雪の残る飛騨山脈のりしえるで24日まで、た。デジタルでない、フ 焼岳の姿。「自分らしく写真家で城里町在住の鳥 イルムを使った銀塩写真 自然を表現したい」と、利宣さんと、水戸市在住 ならではの深みある表情 一つの風景を2、3分割の萩谷靖さんによる写真 を愛し、自分自身で現像して撮影した写真を組み



違った視点で自然を写し撮った鳥利宣さん(左)、萩谷靖さんの写真展「水戸市見川町のギヤラリー」しえる

ドを極度に遅くし、1枚に2時間かけて撮影した作品を展示。深い闇につつすらと浮かび上がる木々、光放つように写った草花などの姿には、自然